

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第 5 次行政改革大綱第 1 次実施計画との関連		有 ・ 無
☐ 有		
☒ 無		

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	学校営繕事業								
1 - 2 担当	部	教育部	課 又は施設	学校教育課	係	庶務係	評価票作成者	庶務担当係長 福井 富三男	
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	教育文化			基本施策	義務教育		コード	4—3—1
		「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			単位施策(中)	学校施設の整備・充実		コード	4—3—1—3
	項	学校教育			単位施策(小)	学校施設の整備・充実		コード	4—3—1—3—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市立小中学校（12校）		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		教育内容に応じた学習環境を整備し又、安全・安心な学校生活環境を整備する。			
1 - 5 事務事業の内容	学習しやすい環境作りと学校施設の安全確保のために、定期及び随時の点検を行う。								

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	学校施設の安全確保のために、定期及び随時の点検を行った。アスベスト調査も行った。			耐震に対する取組み、アスベストへの対応など、安全安心への関心が高まっている。			安全・安心・快適な教育環境整備の充実を求められている。			
	平成19年度	18年度と同様に定期・随時の点検を行った。又、アスベストについては浮遊調査を行った。			"			"			
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	点検回数（回）				306（回）	306（回）	消防設備・電気工作物・配膳用エレベーター保守・プールろ過装置等保守点検 前期 年 3 0 6 回 後期 年 3 0 6 回				
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a（校）	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度
	直接事業費 b（千円）	12	12								
	人件費 c（千円）	30,202	28,858								
	合計コスト d（b + c）（千円）	1,024	1,024								
	単位コスト d / a（千円）	31,226	29,882								
	単位コスト d / a（千円）	1校当たり 2,602	1校当たり 2,490								

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ➡ 直接事業費 保守点検等
人件費 1人3,200円（ 1 時間 ） × 3 2 0 時間 = 1,024,000円

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（単位）	306（回）	306（回）								
	後期目標値に対する達成度（％）	100.0（％）	100.0（％）								

3 ■ 事務事業の自己評価結果

３－１ 評価結果 （アウトカム自己分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度 担当課評価	A	A								

- ４段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
３－２ 評価の内容	平成18年度	利用頻度及び耐用年数を的確に掴み、早めの点検、修理を心がける。	18年度からのアスベスト調査を継続して行う。教室への天井扇を引続き設置する。	プール・エレベータの事故などが他市町であったが、当市においては、日頃の点検等により被害がなかったことが評価できる。
	平成19年度	安全な学習環境を保つよう定期・随時の点検修繕に努める。	〃	常日頃の学校職員の目視などによる報告で、早い段階に対応をおこなったことと、保守点検等により被害がでなかった。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
４－１ 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		